

カンガルーシップ活動 共生プロジェクト 実施報告書

報告日	平成28年2月24日(水)
主管学校名	山形大学附属幼稚園
PTA会長名	菅野 佑吉

実施概要	主管校	山形大学附属幼稚園
	交流校	特別支援学校、山形大学
	実施活動名	バザー参加&メンテナンス
	実施日時	平成27年12月2日(水) 2月23日(火)
	実施場所	山形大学、山形大学附属幼稚園
	実施目的	・園児とその保護者、職員が特別支援学校高等部の生徒、職員との交流活動を通して、同じ附属学校の仲間として互いに理解を深める。
	実施内容	1 特別支援学校主催のバザーの案内や商品の展示 2 園児、保護者のバザーの参加 3 園がこれまでに購入した支援学校バザーの商品(ベンチ等)のメンテナンス 4 園児使用の商品開発と購入
実施方法	1 ふよう夏祭りでバザーの案内と共に、商品の展示や制作過程紹介コーナーを設けた。 2 園児とその保護者がバザーに参加し、買い物を楽しみながら交流を図る。 3 特別支援学校高等部の生徒が幼稚園に来て、ベンチのメンテナンス(脚の高さ調整、やすりがけ、ネジ穴埋め、ネジ締め等)を行い、その様子を園児並びに保護者が参観し交流を図る。 4 園児使用の商品を特別支援学校と共に開発し、購入。保護者(有志)が購入した商品の塗装を行う。	
参加人数	園児、保護者、家族、特別支援学校、約200名	

報告事項	内容	1 ふよう夏祭りにて、附属学校園の交流活動の様子の写真を展示紹介した。 特別支援学校の生徒が製作したバザーの商品(ベンチ・ラック・アクリルたわし・ハガキ・コースター・便箋・封筒・カレンダー等)を展示し、ポスターやおたよりでバザーの案内をした。 2 特別支援学校主催のバザー(於山形大学小白川キャンパス)に、附属幼稚園園児(4歳児)がバスを利用し参加。園児は各自100円を持参し、品物1~3つ選び、買い物を楽しんだ。 3 特別支援学校高等部生徒が幼稚園へ来て、ベンチメンテナンスを行った。高さ調整や、やすりがけネジ締め等、細かい作業をしている様子を、園児や保護者が参観した。 4 園児の体に合ったサイズ、室外で使用するミニベンチを、特熱支援学校と園とで共同開発した。また園保護者が塗装の仕上げを行った。園生活で子ども達が活用した。
	結果	1 夏祭りで附属学校園の交流活動の展示紹介を行い、来場者に盛んに交流が行われている事を知ってもらえる事ができた。また、特別支援学校の生徒が製作した商品に触れてもらい、手作りの温かみや丁寧さを見ていただき、物を大切に作る気持ちを伝えられた。また園生活でもベンチやひしゃく等を活用している様子を伝える良い機会となった。 2 共生プロジェクト助成金を活用し、園児は100円を持ちバザーに参加。園児は20円、30円の物を2つ、3つ選んで「ハガキ」「コースター」「アクリルたわし」等多くの品物を悩みながら、楽しく買い物をしていた。バザーに参加した保護者の方は、丁寧に作られている商品に驚き、特に木製のラック・ベンチ・かごは大人気であった。また子ども達がバザーで購入した品物を、母へのお土産としてプレゼントする姿もあり、大変好評であった。 3 毎日活用している自分達のベンチが、メンテナンスされ、壊れている物も綺麗に直っていく様子を園児が興味深く参観し、喜んでいた。 4 園と支援学校と保護者が協力して園児のための商品を開発し、園児が有効に使うことができた。
	所感	・園児たちはバスに乗ってバザー会場の山形大学へ行き、一人で品物を選んでお金を払うという経験をして、何を買おうか真剣に悩む姿や、品物買えて喜ぶ姿がとても印象的であった。また買い物する際、特別支援学校の生徒さんとお金のやり取りや「いらっしゃいませ」「〇〇円です」「有難う」等会話を楽しむ様子も見られ、とても良い交流の場であったと思われる。

添付書類







カンガルーシップ活動 共生プロジェクト参加感想

提出日	平成28年2月24日(水)
学校名	山形大学附属幼稚園
学年	3・4・5歳児・高等部

(バザーについて)

- ・一人で買い物を迷いながら選んだり、自分でお買い物をしてとても楽しかった。
- ・品物がたくさんあって何をかうか迷った。
- ・10円で買えるものがたくさんあっていっぱい買えた。
- ・綺麗な封筒を見つけて嬉しかった。
- ・お母さんが喜ぶ物を探した。お店のお兄さんも色々教えてくれた。
- ・買い物をするとき、ドキドキしたけど、買えて嬉しかった。
- ・お店屋さんのお姉さんが優しく「20円です」と教えてくれて楽しく買えた。
- ・お兄さん、お姉さんが計算してくれて凄かったし、優しくしてくれて嬉しかった。

(ベンチメンテナンスについて)

- ・いつも使っているベンチ、お兄さんが作ってくれて嬉しい。(今日は綺麗にしてくれて有難う)
- ・釘が出ているところを直してくれて有難う。
- ・直してくれるお兄さんが格好良かった。
- ・ガタガタしているところが直ったよ。直してもらって良かった。

～特別支援学校 高等部生徒の声～

- ・園児が見てくれていたので緊張したけど頑張った。
- ・ベンチを直したら園児が「凄い！」と喜んでくれて良かった。
- ・直している時に「がんばってね!」「有難う」と言ってもらえて嬉しくて頑張った。

カンガルーシップ活動 共生プロジェクト参加感想

提出日 平成28年2月24日(水)

学校名 山形大学附属幼稚園

(バザー)

- ・自分のお財布から自分の気に入ったものを買う。親からすると日常の光景ですが、子ども達にとっては非日常の時間を十分に楽しんでいる様子だった。
- ・大切なお財布の中を支援学校の生徒さんに見せて「これ(残金)で買える?」といったやり取りは、お金に対する感覚を養い、モノに対する扱いをする事を身に付ける良い機会となった。
- ・自分のほしい物よりも、お母さんが喜ぶ物を選んでいる子が多く感動した。
- ・初めて我が子が選んで買った「鍋敷き」が家にある。母のために買ってくれた気持ちが嬉しく、使うたびに本人も凄く嬉しそうにするので、この機会を大変感謝している。
- ・お兄さん、お姉さんが一生懸命作ってくれた物を見る良い機会となり、お金のやり取りを通して、会話も生まれるなど、附属間の交流としてとても良い場だと思う。
- ・買い物をして帰ってきた子ども達はとても誇らしげに見えた。娘は自分が責任を持って購入した布製のバッジやマグネットを毎日大事に使っている。

(メンテナンス)

- ・子ども達が毎日使っているベンチのメンテナンス。日常ではなかなか見ることができない事。壊れたら直して、大切に使う事の大切さを学ぶ、良い経験となったと思う。
- ・支援学校の生徒さんの手際の良さや、器用に道具を使いこなす姿に感動した。
- ・手作りの物は本当に”良い物”だと感じた。子ども達に大切に使用してもらいたい。
- ・釘を打ち込んだりボンドを埋めたり、細かい作業をする姿は、子ども達の心にも響いていると思う。物を大切にする心が芽生える良い時間であったと思う。

(商品開発)

- ・園児が使う個人用ミニベンチを、園と特別支援学校と保護者が協力しながら開発できたことを嬉しく思う。ベンチを園児達が、使って楽しく遊んでいる様子を見て、やりがいを感じた。